

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		社会福祉法人あい 児童デイ ゆーふる		公表日		2026年3月5日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	9				
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	9				
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	9				
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	9		・活動の内容に合わせて配置や準備をして楽しく活動ができるようにしている。 ・子ども達が過ごしやすい環境を整えている。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	9		必要に応じてパーティションを使用し空間を区切ったり、2階の活動室を使用して個別の対応ができるようにしている。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	9		定期的にスタッフ会議を行い、スタッフ全員が情報を共有できるようにしている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9				
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9		管理者との面談や、スタッフ会議などで意見を聴き、改善に努めるようにしている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		9			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	9		オンライン研修の活用や、外部の研修に参加している。また、研修を受けたスタッフに講師として内部研修を行っている。		
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	9		ホームページに掲載し公表している		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	9		保護者からの聞き取りの他、相談員や関係機関と連携してニーズに沿った計画の作成に努めている。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	9		支援会議の中で、スタッフからの意見を聴き話し合いを行っている。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	9		スタッフが情報の共有できるように見やすい所にファイルを設置して情報共有した上で支援をしている。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	9				
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	9				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	9		スタッフ会議の中で各月の活動について話し合いをして決めている。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	9		季節ごとに新しい活動を取り入れるようにしている。		

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	9		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	9		利用者の状況について情報を共有して支援を行っている。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	9		支援終了時に話し合いの時間を設け気づいたことを情報共有している。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	9		しっかり記録を取り、更にニコリホットやヒヤリハットを活用して改善に努めている。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	9		保護者からの意見を参考に見直しをし、支援会議で支援目標の検討をしている。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	9		
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	9		選択ができる活動を取り入れ、選択できるように声掛けをしながら本人の意思を優先している。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	9		児童発達支援管理責任者が参加し、日頃の支援の様子を伝えている。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	9		
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	9		電話・ノートやラインアプリを使用し連絡をもらっている。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	9		利用開始前にサービス担当者会議等に参加し、情報の共有ができるようにしている。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	9		支援移行会議に参加し、情報の共有をしている。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	9		
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	9		長期休みにご家族や兄弟などが参加できる行事を開催できた。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	9		
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	9		降所時に保護者に申し送りを行っている。また、ラインを利用し細やかな連絡が取れるようにしている。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	9		現在は行っていないが、必要な状況があった場合には検討していく。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	9		管理者が契約時に説明を行っている。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	9		アセスメントや、日々の聞き取りから意向聴いたり、面談の機会も設けている。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	9		計画書を説明し確認していただき同意を得ている。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	9		送迎時や降所時に直接話せる時間を大切にしている。

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	9		保護者会からの案内等を配布している。	
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	9		玄関にご意見箱を設置している。メールやライン連絡ノート等様々な方法で苦情や意見をいただけるようにしている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	9		ゆうふるだより・活動カレンダーや行事のチラシの配布をしている。Instagramを活用して活動の様子を見られるようにしている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	9		写真や・名前、動画の使用には保護者の同意を得ている。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	9			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		9		駐車スペースの問題が改善されたときに検討していきたい。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	9			保護者への周知ができていないところがある。閲覧してもらえるようお便りなどで知らせしていく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	9		年2回の避難訓練を行っている。今後は消防署の立ち合い訓練も実施予定である。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	9		アセスメントで確認している。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	9			
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	9			
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携を図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	9			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	9		スタッフ会議で共有し、改善策を考え徹底している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	9		オンライン研修や外部研修に参加している。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	9		スタッフ会議で話し合いを設けている。また保護者の方に説明し個別支援計画に記載している。		